

**【教育活動の名称】 大野っ子読書タイムの推進**

**【副題】 ~すすんで本を手に取り、自ら読む児童の育成~**

**【学校名】 甲賀市立 大野小学校**

**1 本校の概要**

本校は、図書の好きな児童が多く、図書室を訪れる児童が多い。また、本バッグを児童机に常備し、常に本を身近なところに置いて図書に触れる機会を持てるようにしている。その他にも、週1回学校司書が来校し、本校職員とともに本を紹介して子どもたちの読書活動を推進している。しかしながら、図書が古くなってきたり、小規模校（全校児童74名）のため予算が限られていたりして、新しい本を手に入れることが難しい現状にある。子ども一人ひとりが必要とする図書の整備がまだまだ至らないため、今回の助成を申請し、図書の充実を図って「すすんで本を手に取り、自ら読む児童の育成」のきっかけをつくりたいと考えた。

**2 取り組んだ内容**

**(1) 大野っ子読書タイム**

毎月子どもたちが楽しみにしている時間の中に「大野っ子読書タイム」がある。これは、本校の職員がいろいろな学年の教室を訪れて、子どもたちに本を読む取組である。毎回、いろいろな職員が教室に来てこれまで読んでいない本が紹介されるので子どもたちに大変好評である。毎月、季節や行事のテーマに合った本を子どもたちに読んでいます。特に人気があった本は、今回の助成で購入した「野球しようぜ！大谷翔平ものがたり」である。この本は、世界的に有名になった大谷選手の幼少期から今の活躍に至るまでのことが書かれており、野球を始めた子どもたちはもちろん、1年生から6年生までどの子も夢を持って挑戦する励みになる本である。読み終えた後、「大谷選手ってずっと頑張っていてすごい」という感想や、「成功、失敗というけれど、失敗も次に生かせれば、失敗じゃないと思った」と話す子がいた。図書を通して、大谷選手の活躍だけでなく、挑戦をやめない姿勢のすばらしさを学ぶことができた。大谷選手が自分と同じ時（小学2年生）に野球を始めたことを知り、「そうなんだ！」と大きく反応し、大谷選手の実物大の手形に手を合わせる子も多くいた。その後も子どもたちに繰り返し読まれており、すすんで本を読むきっかけをつくることができた。



**(2) 「ともに生きる」学習**

本校では、総合的な学習の時間に3・4・5・6年生で「ともに生きる」という学習を行っている。それぞれの学年で「車いす体験」「点字・アイマスク体験」「地域の施設の方々との交流」等を通して、障がいの有無に関わらず互いを理解し、尊重し合うことを目指して学習を進めている。その学習で「みんなが使いやすいユニバーサルデザイン」の本を使っているいろいろな人に配慮したユニバーサルデザインについて調べることができた。調べ学習を通して、すべての人が快適に過ごすために様々な工夫があることを知った。同時に、知れば知るほど不自由な環境に困っている人がたくさんいることに気付くことができた。そして、困っている人を見かけたら、自分のできる範囲でお手伝いすることの大切さを学ぶことができた。

**3 活動の成果**

今回、多くの本をいただいたことで子どもたちが読書にひたる機会が増え、夢を描いたり、異なる立場にあっても互いを理解する大切さに気付いたりすることができた。多くの種類の読書を通して、子どもの興味関心の範囲が広がり、落ち着いて学習する時間を少しずつ伸ばす様子も見受けられる。帰宅後、なかなか読書の時間がとれない子どもたちが多く、学校では少しでも読書の時間を確保し、これからもすすんで本を手に取り、自ら読む児童の育成のため、今後も読書を通して心を育てる取組を続けていきたいと考えている。